

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和4年度第2回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和5年3月8日(水曜日) 午後3時00分～午後5時00分
3 会議の開催場所	さいたま市岩槻人形博物館会議室
4 出席者名	新井委員長、是澤副委員長、大越委員、 清水委員、抜井委員、三次委員、森田委員
5 欠席者名	小林委員、中村委員、水落委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) 1 報告事項 令和4年度事業計画実施状況について 2 審議事項 令和5年度事業計画案について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0名
9 審議した内容	令和5年度事業計画案について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

令和4年度第2回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年3月8日(水) 15時から17時まで
- 2 場 所 岩槻人形博物館 会議室
- 3 出席者 (1) 委員(7名)
新井久代委員長、是澤博昭副委員長、大越久子委員、清水一郎委員、抜井ゆかり委員
三次宣夫委員、森田由美子委員
(2) 事務局
スポーツ文化局 鶴田局長、川田文化部長
岩槻人形博物館 田中館長、岩崎副館長、池田主幹、林係長、平井主査、清水主査
※オブザーバー にぎわい交流館いわつき 大金運営統括マネージャー
(3) 欠席者(3名)
小林健委員、中村美帆委員、水落恵一委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0名
- 6 内 容 以下「次第」のとおり
＜次第＞
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 報告事項 令和4年度事業計画実施状況について
 - 4 審議事項 令和5年度事業計画案について
 - 5 その他
 - 6 閉会

＜議事内容要約＞

報告事項 令和4年度事業計画実施状況について

事務局から資料に基づく説明があり、これに対し各委員から次の通りの意見があった。

- 令和2・3年より寄贈を受けていることは歓迎すべきことである。
- この館は技術や再現など様々な側面から人形文化を考えていくという大きなミッションを抱えている。試行錯誤しながら事業展開・成果を上げていることを評価したい。全ての展覧会に研究成果は表れているが、伝え方次第では、さらに良くなるのではないか。来館者数に関しては、この規模に対してはよい数字で、市内の他館と比べても引けを取らない。一方、会議資料の作り方で、博物館の根幹となる収集と修復は個別に見出しを作るべきである。博物館法の改正では、これまでの博物館のミッションの他に文化施設としての重要性に期待するということが加えられたが、最優先されるべき博物館の根幹は変わっていない。特に、人形資料修復の情報と技術の蓄積はこの館の特色である。

- ロビーにある展示物には驚いた。この館は観光施設ではなく、文化発信を担う施設であり、観光機能は隣のにぎわい交流館いわつきが担うというすみ分けがされていたと認識していた。この施設の主たる機能が博物館なのか観光施設なのかをしっかりと線引きすべきである。

審議事項 令和5年度事業計画案について

事務局から資料に基づく説明があり、これに対し各委員から次の通りの意見があった。

- 夏の企画展は楽しみであるが、作家を取り上げる展覧会は簡単なものではない。この館では、現存作家をテーマとした初めての展覧会であり、展覧会に取り組む姿勢など、様々な意味で館のスタンスが問われる。
- 目標値として館の認知度を加えたことは妥当である。修復展については、館として重要なことであるのでより準備を重ねて開催し、多くの方に来館してほしいという館の考えは理解できる。夏の企画展・特別展については、人形に詳しくない方にもわかるように、また、如何に興味を持ってもらうかという視点のもと、作家名だけにならないような名称にしてほしい。(欠席委員より)

その他 館の認知度を上げ、より多くの方に館のことを知っていただく方策等について

各委員の専門や立場等から、「展示」「広報」「教育」等多方面から意見や提案をいただいた。

- 先日、この館と岩槻人形組合の方との意見交換が行われた。その中で、館を外から見ると、中に入りにくい雰囲気があり、入館しようという気持ちにならないという声があった。これに対し、例えば、ガラス張りで見えるロビーの空きスペースを利用し、人形の町らしさを視覚で訴えるような展示を行うことも一つの方法であるという意見が出された。他にも、展示解説や展示する資料の数、また展示する人形の種類などを増やすことによって、それほど人形に興味のない方に対し、入館しやすい仕掛けをしていくことなども提案された。
- 来館した際に、何回もこの館に行きたいという気持ちにならないと、リピーターに繋がらないのではないかと、また地域の方で、初めてこの館に行き「また来たいとは思えない」という意見の方もいた。展示方法などを工夫し、館にさらなる魅力を持たせないと、関心のない方にはなかなか人形文化やこの館の良さが響かないと思われる。例えば、館の様々な情報を載せたチラシ等を定期的に自治会の回覧板にいれさせてもらうなどの工夫が必要である。
- 観光の視点では、外からの来館者だけではなく、地元の方々の参加が大切であり、この館のことを自分のこととして捉え、また、この館を何とかしてあげたいと思っていただけるよう、様々な働きかけが必要である。
- 雛祭りの時期は、来館者数は増えているので、来館促進の重点的なポイントである。

この館にもメディアに取り上げられる目玉となるものがあるとよい。

来館促進とともに、メディア戦略においても大宮盆栽美術館との連携が重要である。

- 調査研究、収集、保存修復は博物館の使命であるが、同時に地域との連携も必要になってくる。博物館・地域・プロモーションは三位一体で動かないと機能せず、効果的に機能するためには、全体を統括する人が必要である。さいたま市が運営している以上は、来館者数の目標は立てざるを得ないが、目標を達成させるために博物館の使命や根幹、イメージを犠牲にしてはならない。
まずは、館の認知度を上げる広報活動を行うことに特化するのはいかがでしょうか。
この館の活動とは別に、地域として「人形のまち岩槻」復活が必要であり、まちの情報を含めて一体的に来訪者の促進や広報活動などを考えていく必要がある。
- リピーターを育てることが重要であると考え。例えば、イヤホンガイドを活用し、人形を近くで観ながら、耳でストーリーを聞くことが可能であれば、集中して人形鑑賞を楽しむことができる。イヤホンガイドがあること自体が来館のきっかけになるとともに、解説を聞くことにより体験の満足度が向上すると考える。また、展示エリアの解説文については、内容が難しいので分かり易い表現にしたり、文字を大きくしたりするなど、鑑賞の充実を図ることが必要である。
- イヤホンガイドを充実させることについて、館で改めて検討してほしい。
- 人形には、展示室1で紹介されている頭製作以外にも様々な工程があるので、他のパーツの原型から型を作る作業工程の紹介、さらに、刷毛などの人形製作時に使う道具や製作途中の人形のパーツなどを、来館者が触れることができる展示が可能であれば、人形を作る職人の世界を、より深く理解することができるのではないだろうか。
- 職人の方々の話には魅力があり、来館者が物を触りながら話を聞くことができれば面白いのではないか。
- 例えば、会議室を職人の広場として、来館者には、まず職人の方々から話しなどを聞いて、作業工程や種類等を知った上で、展示室に行ってもらえることができれば、人形文化の理解が深まるとともに、会議室の有効活用にもなると考える。
- この館の体制を考えると、現状でも厳しいところがあるが、今後、展示解説等をより多く実施していくためには、ボランティアの方々の協力が必要であり、その為には、学芸員による研修をより多く行っていなければならない。
- 博物館でありながら、集客だけをやろうとすると、いずれ観光施設になってしまう。集客にあたっては、子どもの絵の展示など様々な手段があり、実施の仕方次第であるが、博物館機能は忘れてはならない。職人の方々との連携も必要であり、にぎわい交流館いわつきとともに行っていくべきであ

る。さいたま市には、盆栽、鉄道、漫画、人形という全国にもないユニークな文化資源があり、それらの館と連携をするべきであるが、大きい意味でのコーディネートが必要で、この館が全てを取り込んで発信しようとするとうと本質を見失う恐れがある。

- 3月頃に雛人形展を実施する博物館は、展覧会の展示資料がパッケージになっていて、展示する人形はほとんど変わらないが、来館者は今年もこの人形に会いに来る、という感覚で、継続して来館をされている。この館でも、雛の時期の展覧会は、展示をパッケージにし、解説などのイベントで工夫をしていくといいのではないか。

同じ時期に同じ雛人形を出していくことで、岩槻の雛祭りといえはこの雛人形として、この地域の方々に、広まっていくのではないか。

その他の時期の展覧会は、節句以外の、現代の創作作家などをテーマにして、様々な人形文化を発信するべきである。

- 地域に根差した博物館の大切さを改めて認識した。埼玉県の人形文化の中で、岩槻が中心となり、県内の他の産地まで波及できる何かが、博物館にとらわれずあってもよいと思われる。

- 市内在住者への周知においては、保護者は学校からの配布物を必ず見るので、展覧会毎にちらし等を全児童生徒に配布すると、館の認知度は確実に向上するのではないか。雛人形は世代に関係なく人気があるため、館のPRに際しては大いに活用するものとする。既存の取組などについて、もうひと手間かける、あるいは活用するというだけでも十分効果的であるとする。例えば、商店との連携拡充、にぎわい交流館いわつきとの交流、それぞれにショップがあるので、ショップだけでも見てもらうという意識で相互にPRするプレートを置くだけでも違いがあるのではないか。

地域社会におけるミュージアムの在り方についても、経営の視点を持たなければならない時流になっている、この館は文化をコンテンツとして人を呼び込むという最近の潮流に乗りやすい施設であることから、これを生かさない手はない。他都市や他館との連携は、互いに周知・PRすることができ、さらにネットワークが構築できれば、情報をまとめてそれぞれの館において発信することができるため、推進していくべきである。岩槻にある人形関係の施設と互いのよさを生かした交流ができるとうよい。(欠席委員)

会議録作成

事務局が作成の上、その確認については委員長に一任することとされる。

令和4年度第2回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 次第

日時：令和5年3月8日（水）

15時から17時まで

場所：さいたま市岩槻人形博物館会議室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
令和4年度事業計画実施状況について
- 4 審議事項
令和5年度事業計画案について
- 5 その他
- 6 閉会

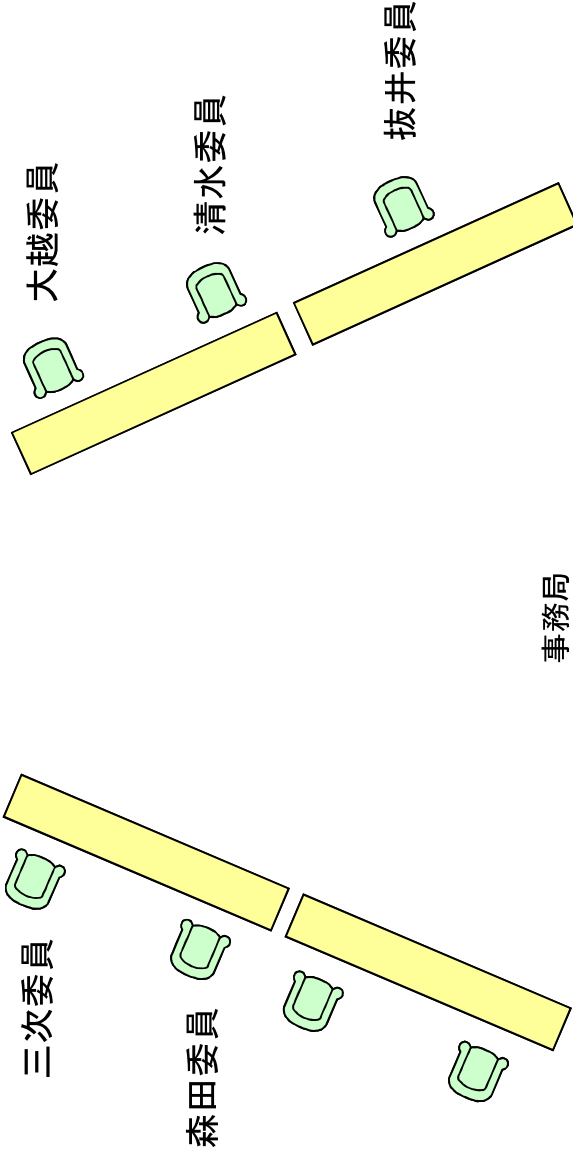
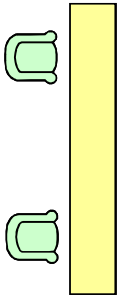
委員名簿 (敬称略 五十音順)

氏名	所属	出欠
新井 久代	公益財団法人遠山記念館 学芸員	
大越 久子	埼玉県立近代美術館 主任専門員	
小林 健	東武鉄道株式会社 エリア統括マネージャー	欠席
是澤 博昭	大妻女子大学 教授	
清水 一郎	ちばぎんひまわりギャラリー	
中村 美帆	青山学院大学総合文化政策学部 准教授	欠席
抜井 ゆかり	立教大学 兼任講師	
水落 恵一	NPO法人岩槻・人形文化サポーターズ 理事	欠席
三次 宣夫	岩槻区自治会連合会 会長	
森田 由美子	岩槻人形協同組合 婦人部長	

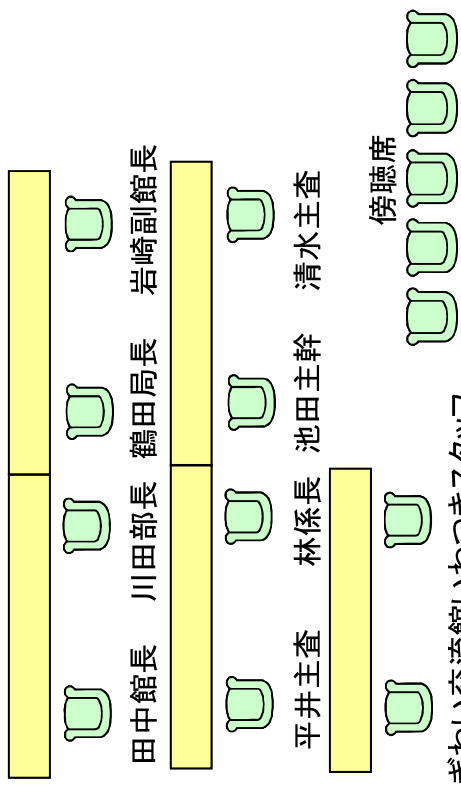
任期：令和4年9月1日から令和6年8月31日まで

席次

新井委員長 是澤副委員長



事務局



にぎわい交流館いわつきスタッフ

報告事項

令和4年度事業計画実施状況について

※第1回委員会開催以降（9月以降）の実績を追加

		2023年											
		令和4年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画展示	企画展示		4/29～8/21(94日間) 特集展示 郷土玩具 8,047名		9/23～12/4(63日間) 特別展 人形作り いろはの“い” ～後世に伝えたい桐壺の技～ 6,298名		1/28～3/19(44日間) 企画展 描かれた雑祭り ～にんばくの浮世絵コレクション～						※予定
	学芸展示	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等	ウエルカムケース 節句・御所人形等 衣裳・御所人形等
広報	広報		テレビ対談収録 (9/19放送)										
	セミナー・講座・講演 ・キャンペーン ・連携事業	5/8WS			夏休み子ども 人形博物館 展覧会連携 (郷土玩具博物館)			10/8 展示解説 10/15WS 10/23 講演会 10/30 展示解説	11/5 講演会 11/12,27WS 11/23 講演会 11/19 展示解説			2/11WS 2/19 展示解説 2/25 講演会	3/11 展示解説 3/12 イベント
地域 行事	地域行事	市民の日 端午の節句	七夏の節句	岩槻まつり [メイン会場] 重陽の節句 [スタンプラリー会場]	鷹狩り行列 人形供養祭 [メイン会場]	展覧会連携(桐壺菓子、巻藁展示、 ホテルビュウツフエ、組合(交流館講師))							サボーターズ連携(全3日) 文化振興事業団連携(1日)
	来館者数	1,419人	2,751人	2,016人	1,847人	1,636人	2,071人	2,966人	2,423人	1,438人	2,117人	5,573人	
学小・中 学校数	学小・中 学校数	0校	4校 (464人)	7校 (576人)	5校 (260人)	0校	12校 (979人)	10校 (1,028人)	6校 (458人)	2校 (220人)	2校 (206人)	2校 (136人)	0校

その他の実施状況

1 ボランティア状況 ※令和4年度研修回数(は予定1回を含む)

年度	採用人数	研修回数
令和2年度	4人	13回
令和3年度	3人(累計7人)	7回
令和4年度	4人(累計11人)	16回

2 収集件数(購入、寄贈)

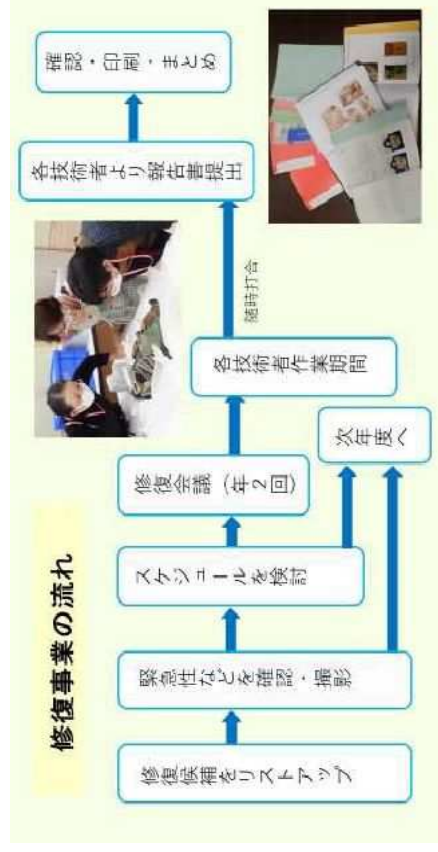
年度	購入件数(金額)	寄贈件数	合計件数
令和元年度以前	987件(62,916,695円)	4,424件	5,411件
令和2年度	8件(1,986,100円)	56件	64件
令和3年度	10件(2,000,000円)	15件	25件
令和4年度	13件(2,000,000円)	107件	120件
合計	1,018件(68,902,795円)	4,602件	5,620件

3 修復の取組

4名の修復技術者(会計年度任用職員)により実施

※令和4年度は予定分を含む

年度	修復件数
令和元年度以前	397件
令和2年度	67件
令和3年度	39件
令和4年度	33件(予定)
合計	536件



審議事項

令和5年度事業計画案について

※事業計画案に対する意見を踏まえ検討

※朱書き：追加修正事項

【目的】本市の魅力ある資源である人形文化の振興

【令和5年度目標】

＜来館者数＞ 年間7.4万人

＜博物館の認知度＞ 市内在住者 44.0% 市内在勤者 28.0%



《令和5年度事業計画（重点的な取組）案》

1 展示事業

【基本的方向性】

[企画展示] リピーターを増やし集客力を高めることを意識した展示及びテーマ性の強い内容
年4回（特集展示、企画展（夏）、特別展、企画展（雑））

[常設展示] 資料の劣化防止及びリピーターの獲得を意識した展示替え
年2～4回

リピーターの獲得を意識した空きスペースの活用

随時 展示室3（展覧会期間外）、会議室、オープングャラリー等において、当館コレクション等に
関する展示（映写） 例）動画、画像、レプリカ、パネル

2023年		2024年													
令和5年度															
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
企画展示		4月29日(金・祝) ~7月2日(日)	7月29日(土) ~9月10日(日)		10月7日(土) ~12月3日(日)		1月27日(土)~ 3月24日(日)								
		特集展示 見る、知る、学ぶ! 岩槻の人形学	企画展 中村信喬展(仮)		特別展 岡本玉水展(仮)		企画展(雑) 商家に伝わる お雛さま(仮)								
		【展示替え】 ウェルカムケース6、10、12、1月 手前側4、7、8、12月 奥側9、3月													
		【空きスペースの活用】 随時 (展示室3(展覧会期間外)、会議室、オープンギャラリー等)													
常設展示															

特集展示

見る、知る、学ぶ！岩槻の人形学

狙い 学校見学対応(メニュー作り)

内容 特別展(R4)の成果を生かし、パネルを中心に、岩槻の歴史、技術、人形等を紹介

「五月晴」鈴木賢一
昭和46年(1971)



特別展

岡本玉水展(仮)

狙い 寄贈品の活用

内容 人形師・創作人形作家「岡本玉水」の足跡を紹介

「助六」岡本玉水
昭和38年(1963)



企画展

中村信喬展(仮)

狙い 取組(連携)実績の活用

内容 岩槻等の人形界への貢献のために、人形作家「中村信喬氏」の作品や技を紹介

「史記編纂」
中村信喬



EVANGELION ×
中村人形
SHIBUKAWA MUSEUM



企画展(雑)

商家に伝わるお雛さま(仮)

狙い 歳時行事との連携

内容 恒例の雛祭り展として、商家に由来する雛人形を紹介



2 情報発信事業（広報・プロモーション）

【基本的方向性】

集客（及び館の認知度）を図るために広報プロモーションを行う。

広報プロモーションに当たっては、愛好家（研究者）に限らず**広く一般の方を対象**として、各種媒体及び機会を活用しながら、**岩槻における地域連携は元より、親和性の高い博物館や地域との連携も構築しながら展開する。**

<展覧会の広報>

- 展覧会開催時における展覧会の周知
 - ・チラシ（特集展示除く）・ポスター ・ニュースレター ・HP ・インスタグラム ・大型ビジョン放映（企画展等）
 - ・校長会での周知 ・地域イベントでの周知 ・ホテル・商業施設での展示（企画展等） ・地域での巻葉展示（企画展（雛）等）
 - ・プレスリリース（市記者クラブ含む） ・交通機関広告（企画展・特別展） ・WEB広告 ほか
- 平常時における（展覧会開催までの布石として）先々の展覧会のテーマ（題材）に関する周知
 - ・展覧会年間スケジュール発行 ほか

<館の認知度向上に向けた広報>

- 平常時における岩槻人形博物館の周知
- 平常時における岩槻のまちの周知
 - ・映像、ロビーバナー等の作成及び活用による収蔵コレクション、西澤笛畝（人物）、ロゴ等の周知
 - ・ロケーションサービスによる施設の周知 ・HP掲載等によるミュージアムグッズの周知 ・広報用資料の活用 ほか

■ 交流事業

【基本的方向性】

〔平常時〕 これまでの地域連携を継続しつつ、連携に当たっては館のプレゼンスを示していく。

他の博物館や地域との交流を推進し、広報や展示に関し連携を検討する。

〔展覧会開催時〕 展覧会ごとにテーマに合った交流を推進する。

- ・庁内他部署（にぎわい交流館いわつき含む）や岩槻の関係団体との連携
- ・庁内他部署と連携による他都市（博物館）との連携の構築

3 教育普及事業

(1) 小中学生学習支援

【基本的方向性】

館の組織体制にしながら、まずはボランティア組織の構築を前提に、積極的に小学校見学の受入れを行っていくこととし、可能であればアウトリーチを検討する。

・引き続き、小学校見学等の受入れを積極的に進めていくとともに、来年度の特集展示におけるパネル等の活用、業務委託による展示解説(展示室1)等、内容の充実を図る。

(2) 生涯学習支援(展示解説)

【基本的方向性】

展示解説については、月1回の定例開催及び展覧会開催時の開催のほか、ボランティア組織の構築を前提に、まずは小中学校の見学時に十分に対応していくこととし、可能であれば希望団体への対応、また定例開催の及び展覧会開催時の開催拡大(回数増)を検討する。

・展示解説について、小中学校の見学対応は業務委託とするため、定例開催の拡大を図ることとし、さいたま市岩槻人形博物館ボランティア「にんぱくボランティア」に対する計画的な研修を進める。

(3) ワークショップ・講座・講演会

【基本的方向性】

〔平常時〕 ワークショップ 館の組織体制にしながら通年実施を目指しつつ、まずは展覧会開催時に実施する。

講座・講演会 実施を前提に、内容については令和4年度の結果を踏まえ検討する。

〔展覧会開催時〕 各展覧会のテーマに応じ、ワークショップ又は講座・講演会を複数回実施する。※特集展示除く

・ワークショップについて、「にんぱくボランティア」の協力の下、時節等に合わせて5回程度、また、展覧会関連を3回程度実施する。
〈平常時〉 絵付け体験((5月)、犬筥(8月)、ふじ雛(2月))、ポチ袋制作(ウズドリ(12月))、組香(重陽香(9月))

・講座・講演会について、各展覧会(特集展示除く)開催時に、展覧会のテーマに応じたものを1~2回実施する。

■ その他の事業（ボランティア組織の構築）

【基本的方向性】

館の組織体制の強化を図る上で、展示解説を中心とした鑑賞サポート等の役割を担ってもらうための組織の量的拡大（人数増）と、人形文化の振興を図る上で、人形に関する正確な知識を有し、館の愛好家になってもらうための組織の質的拡大とのバランスに配慮しながら構築する。

- ・「にんぱくボランティア」の質的拡大とのバランスに配慮しながら人員増を図る。